

2022年6月21日

「未来を灯そう～越喜来 2022～」報告書（改訂版1）

Youth for Ofunato 代表 小田佳祐
 アドバイザー 船戸義和

1. 企画概要

震災11年を迎えるにあたり、鎮魂と未来へのメッセージ発信を目的とした地域行事を企画・実施した。実施においては、地域住民の交流機会創出や地域活動の担い手育成を目指し、高校生や地域住民が主体的に関わること、コロナ禍においても実現可能な活動とすること、を重視した。具体的には、約3ヶ月にわたってメンバーと高校生が共に企画内容を練り、各地区長らと調整しつつ、当初予定を縮小して開催することとした。行事は、3月6日(日)に三陸公民館で「未来を灯そう～越喜来 2022～」と題して実現し、ペットボトル灯籠を用いた展示「灯の道」や越喜来の未来へのメッセージ紹介、地元高校生によるピアノ演奏のほか、浦浜念仏剣舞・金津流浦浜獅子踊の演舞を実施した。

2. 縮小開催の経緯と準備期間

当初は3月4日(金)～7日(月)の4日間、三陸公民館大ホールでの開催を予定していたが、オミクロン株の感染拡大防止を理由に企画の縮小開催を2月中旬に決定した。変更前後のプログラムと準備期間の主な動きは以下の通り。

〈変更前〉プログラム

- ・浦浜念仏剣舞・金津流浦浜獅子踊×ペットボトル灯籠
- ・灯籠展示「灯の道」
- ・灯籠文字パネル点灯式
- ・「思いを記そう」写真展

〈変更後〉プログラム

- ・浦浜念仏剣舞・金津流浦浜獅子踊
- ・灯籠展示「灯の道」
- ・ピアノ演奏

準備期間：約3カ月（11月30日(火)～3月6日(金)）

日程	内容	場所
11月30日(火)～	高校生ミーティング(隔週実施:約10回) Youth for Ofunato ミーティング(隔週実施:約10回)	オンライン
12月26日(日) ～12月28日(火)	冬派遣 ・学生と高校生が企画の試行 ・越喜来地区の各公民館関係者等に本企画の説明	三陸公民館 大ホール
3月5日(土) ～3月6日(日)	春派遣(企画準備・実施) 未来を灯そう～越喜来 2022～	三陸公民館 大ホール

3. 「未来を灯そう～越喜来 2022～」 イベント詳細

3月6日(日)三陸公民館大ホールにて、約45分実施した。灯籠展示「灯の道」では、468本のペットボトル灯籠を三陸港まつりで行われる「灯籠流し」をイメージして大ホールに設置した。この本数は、市内の震災犠牲者の数である340本と、今年度崎浜地区の方々、越喜来小学校の児童らが作成した128本を合わせており、鎮魂と復興への願いが込められている。

また、2月上旬に越喜来小学校の全児童や保護者、各地区長、Youth for Ofunatoメンバーら135名からアンケート形式で募った「越喜来の未来へのメッセージ」から抜粋したものを本イベントで紹介した。なお、全てのメッセージは、Youth for Ofunato 卒業生の有志らがまとめ、冊子「つなぐー越喜来、みんなの思いー」を編纂した。

加えて、大ホールステージ上で復興支援ソング「花は咲く」を大船渡高校1年生の神津心さんがピアノ演奏したほか、「灯の道」を前に浦浜念仏剣舞と金津流浦浜獅子踊の演舞が行われた。

「未来を灯そう～越喜来 2022～」 プログラム

15:00	開演
～15:03	始めの言葉(YfO 代表:小田)
～15:05	灯籠展示「灯の道」の説明
～15:08	地域の方々からの越喜来の未来へのメッセージ紹介
～15:13	ピアノ演奏「花は咲く」(演奏:神津心)
～15:43	浦浜念仏剣舞・金津流浦浜獅子踊 演舞 ※綾踊りは笛とピアノ伴奏で演舞(ピアノ伴奏:坂本美陽)
～15:46	終りの言葉(高校生代表:神津凜、千田航)

4. 実施主体・広報

企画: Youth for Ofunato、岩手大学 復興・地域創生ユニット

共催: 越喜来地区公民館、Youth for Ofunato、岩手大学 復興・地域創生ユニット

協力: 浦浜念仏剣舞保存会、金津流浦浜獅子躍保存会、越喜来小学校、
越喜来地区の各区・公民館 ほか

【企画参加高校生 6名】(50音順、学年は当時)

刈谷佳史(東区・高田高校1年生)、 神津心(仲区・大船渡高校1年生)、
神津凜(仲区・大船渡高校3年生)、 坂本美陽(仲区・大船渡高校1年生)、
千田航(陸前高田市・高田高校2年生)、 千葉愛(綾里・高田高校2年生)

【準備・当日参加 1名】

及川正嗣(西区・高田高校3年生)

【Youth for Ofunato 学生 7名、岩手大学】

小田佳祐(代表)、黒田桐子(副代表)、及川奈津子、武夫勇人、松丸文音、吉開百音、若井茉莉、船戸義和(アドバイザー・岩手大学)

【ライブ配信】

「未来を灯そう～越喜来 2022～」を Facebook、Instagram 上でライブ配信

【メディア掲載一覧】

- ・NHK ニュース7「震災の犠牲者へ 鎮魂の灯ろうと剣舞」(2022年3月6日 全国放送)
- ・NHK 盛岡放送局 おぼんですいわて「未来を灯そう 鎮魂と復興へのメッセージ」(2022年3月6日)
- ・岩手日報「鎮魂 復興 願いとともす」(2022年3月7日)
- ・東海新報「越喜来の未来をとともす ペットボトル灯籠で鎮魂」(2022年3月8日)

5. 成果

今回のプロジェクトを計画・実行するにあたり、以下の目的を設定した。

- ・越喜来に関わる若い世代が中心に企画運営し、多様な世代が協働する機会を創出
- ・震災犠牲者への哀悼と越喜来の復興・発展の思いを共有する機会の創出

一点目に関しては、コロナウイルス感染拡大を鑑み縮小開催とはなったものの、地域の高校生らが様々なプログラムの企画・準備に関わることで、自ら地域について考える機会を創出できた。加えて、地区長ら約十名に限定した地域住民をイベント会場に招き、高校生らと共に地域への思いを深め合う場づくりに努めた。

二点目に関しては、震災犠牲者供養として浦浜念仏剣舞・金津流浦浜獅子踊の両保存会の協力を得て演舞が行われたほか、市内の震災犠牲者の数である 340 本のペットボトル灯籠を展示した。ペットボトル灯籠は、崎浜地区住民、越喜来小学校の児童らが作成した計 128 本を合わせた総計 468 本を用い、「灯の道」として展示した。そして新聞・テレビなどによる報道を通じて、越喜来内外の方々と東日本大震災への哀悼の意を共有することができた。

また、Youth for Ofunato 卒業生の有志らが編纂した冊子「つなぐー越喜来、みんなの思いー」では、越喜来小学校児童と関係者、越喜来各区長らをはじめとした 135 名からメッセージを掲載した。越喜来各所に配布されたこの冊子は、2011 年から 11 年間の Youth for Ofunato の活動と地域の歩みも記されており、これらを振り返るとともに、越喜来の未来へのメッセージを共有する機会となった。

6. 今後の課題

今回はコロナ禍により、慣れないオンラインでのコミュニケーションが続いたほか、高校生や住民が参加してイベント内容を協議する会議が中止となるなど、お互いの意見や思いを共有する場の設定が不十分であった。そのため、高校生が自ら考え、主体性をもって活動に参加する機会を十分に創出できなかった。また、あらゆる世代による活発な意見交換が行われるという協働のレベルには至らなかった。

今後コミュニケーションが円滑に進まないことが予想できる場合、余裕をもって早めに企画を進行し、共有の場づくりに時間をかけられるかが課題である。

団体としては、企画の立案・実行において、代表・副代表任せになってしまう部分が課題で、1 年生などの新メンバーにも積極的に意見を求めることや、役割を割り振るべきである。また、企画の経緯も含めた十分な情報共有をして活動の透明性を向上させることや、オンライン上でも互いを理解し合えるような積極的なコミュニケーション方法を模索する必要がある。

7. ホームページ

これまで 11 年間の活動や「未来を灯そう～越喜来 2021～」の様子をまとめた動画が閲覧可能。

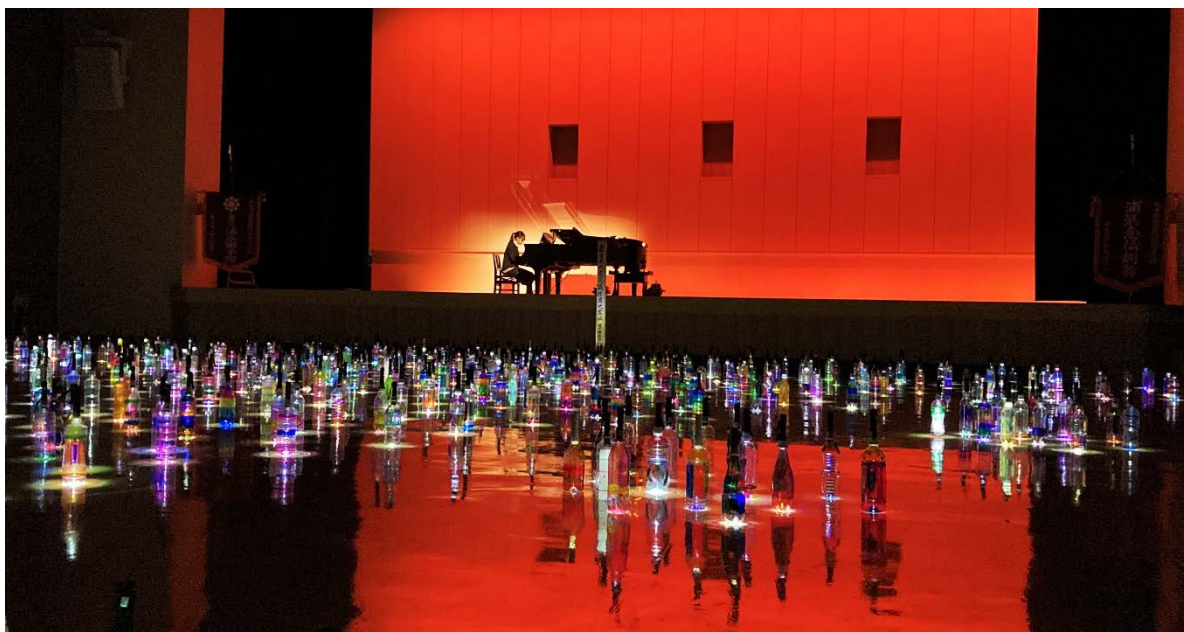
<https://youthforofunato311.jimdofree.com/>

ホームページトップ > これまでの活動 > 2021 年度



「未来を灯そう～越喜来 2021～」動画

8. 写真



以上